

令和2年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	地域振興に必要な経費 （「地域経済循環の創造」の推進に要する経費、過疎地域振興対策に要する経費、定住自立圏構想推進費等除く。）			担当部局庁	自治行政局		作成責任者		
事業開始年度	不明	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	行政課総務室(国際室)		室長 石塚 雅啓 (室長 上坊 勝則)		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	総務省設置法第4条			関係する 計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	人口減少社会の到来、地方分権改革の進展、地域の国際化など、地域をとりまく環境の変化を踏まえ、地方公共団体・住民・企業等の協働により「地域力」を高めていくとともに、各地域における人材力活性化を支援することなどにより、一層の地域活性化を進める。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	有識者等外部の提言や地方公共団体の意見を取り入れつつ、地域力創造施策を進めるとともに、地域の先進的な取組を全国に紹介している。また、地域における外部人材の活用を支援するとともに、人材力活性化施策の推進、地域間の連携交流の推進、地域の国際交流・協力の推進、地域の多文化共生の推進などにより、今後の地域力創造の展開を図る。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	120	123	124	120	119		
		補正予算	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-				
		予備費等	-	-	-				
	計		120	123	124	120	119		
	執行額		69	78	59				
	執行率 (%)		58%	63%	48%				
	当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)		58%	63%	48%				
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	地方振興対策調査費	59.5	58.7						
	庁費	43.4	43						
	職員旅費	6.7	7						
	委員等旅費	5.4	5						
	諸謝金	4.5	4.5						
	その他	0.5	0.8						
	計	120	119						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	地域づくり人材の育成	全国地域づくり人材塾修了者数	成果実績	人	270	219	182	-	-
			目標値	人	240	240	240	-	-
			達成度	%	112.5	91.3	75.8	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	人材力活性化・連携交流室集計値								

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	前年を超えるJETプログラム 招致人数の確保	JETプログラム招致人数	成果実績	人	5,163	5,528	5,761	-	-		
			目標値	人	4,952	5,163	5,528	-	-		
			達成度	%	104.3	107.1	104.2	-	-		
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	国際室集計値										
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込		
	地域力創造に関する施策説明会等の開催回数	活動実績	回	27	15	13	-	-			
		当初見込み	回	27	15	13	-	-			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込			
	地域力創造に関する施策説明会等の開催経費 ／開催回数	単位当たり コスト	百万円	0.1	0.1	0.2	-	-			
		計算式	百万円/回	3.7/27	2.5/15	2.9/13	-	-			
政策評価、新経済・ 財政再生計画との関係	政策	II. 地方行財政									
	施策	2.地域振興(地域力創造)									
	測定指標	定量的指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		-	-	実績値	-	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	-	
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
		-	-	-	施策の進捗状況(実績)						
		-	-	-	-						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	地域振興に必要な経費を措置することにより、全国地域づくり人財塾の修了者が増加するなど、地域づくりに関する知識・経験を持った人が増加し、人材力の活性化や地域間の連携交流などが図られることで、地域の活性化に寄与する。										
取組事項	分野:	-									
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)				単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-			
		目標値	-	-	-	-	-	-			
達成度		%	-	-	-	-	-				
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)				単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-			
		目標値	-	-	-	-	-	-			
達成度		%	-	-	-	-	-				
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係											
-											

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明					
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は広く国民のニーズがある。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は国が責任を持って主導すべき事業である。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	少子高齢化・人口減少社会が到来する中、厳しい財政制約の下では、地方公共団体、市民、NPO等の協働・連携により地域力を高める取組が必要とされている。地域振興、地方分権改革、地域の国際化の推進、多文化共生の推進といった地域力を高める取組は優先度の高い事業である。					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調査研究に要する経費、印刷製本費等について、多額の場合は、一般競争入札を行い、少額のものについても複数者から見積をとるようにより、競争性を確保している。なお、一部契約について一者応札のみであったため、より一層、不必要な入札参加資格条件の見直しや十分な公告期間の確保等により、多くの事業者が参入機会を得られるよう措置している。					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-						
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	事業目的に即し、真に必要なコスト水準となっている。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-						
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	使途については、本事業を遂行する上で、必要なもののみとしている。					
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	経費支出については使途の必要性などに十分配慮し、適切な予算執行に当たっているが、事業の実施数が少なかったことや一件当たりの単価が低かったため、不用率が大きくなっている。					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-							
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	印刷発注においては、前年度実績等を踏まえ、必要部数のみを発注に努めた。						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	全国地域づくり人材塾により地域づくり人材の育成が行えている。また、JETプログラム招致により外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図るための人材育成が行えている。引き続き全国地域づくり人材塾修了者数・JETプログラム招致人数の増加を図っていく。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-						
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	見込みどおりの活動実績となっている。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	全国地域づくり人材塾により地域づくり人材の育成が行えている。また、JETプログラム招致により外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図るための人材育成が行えている。引き続き全国地域づくり人材塾修了者数・JETプログラム招致人数の増加を図っていく。					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-						
	<table border="1"> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	所管府省名	事業番号	事業名				
所管府省名	事業番号	事業名						
点検・改善結果	点検結果	印刷製本については、配布実績等を踏まえ、業務上必要最小限にとどめている。今後も印刷までの作業期間に余裕をもたせる等の改善を図り、多くの業者が参入可能となるよう努めていきたい。 消耗品等の物品購入については、業務上必要最小限にとどめているが、今後も引き続き留意する。 旅費については、原則としてバック旅行を導入し、効率的な執行に努めている。						
	改善の方向性	今後とも引き続き、執行額を抑制し、コスト削減に努めていきたい。						

外部有識者の所見

「全国地域づくり人財塾」と「JETプログラム」とが同じ事業項目の中にある必然性が理解できない。両者をリンクさせる事業があるのか説明が必要。アウトカム指標も「人数」となっており、それによる政策的な効果が見えてこない。JETは他省庁も関係していると思うが、そのアウトカムが総務省で切り分けられるか説明が必要。

行政事業レビュー推進チームの所見

一 部 の 改 善	更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。
-----------------------	-----------------------------

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

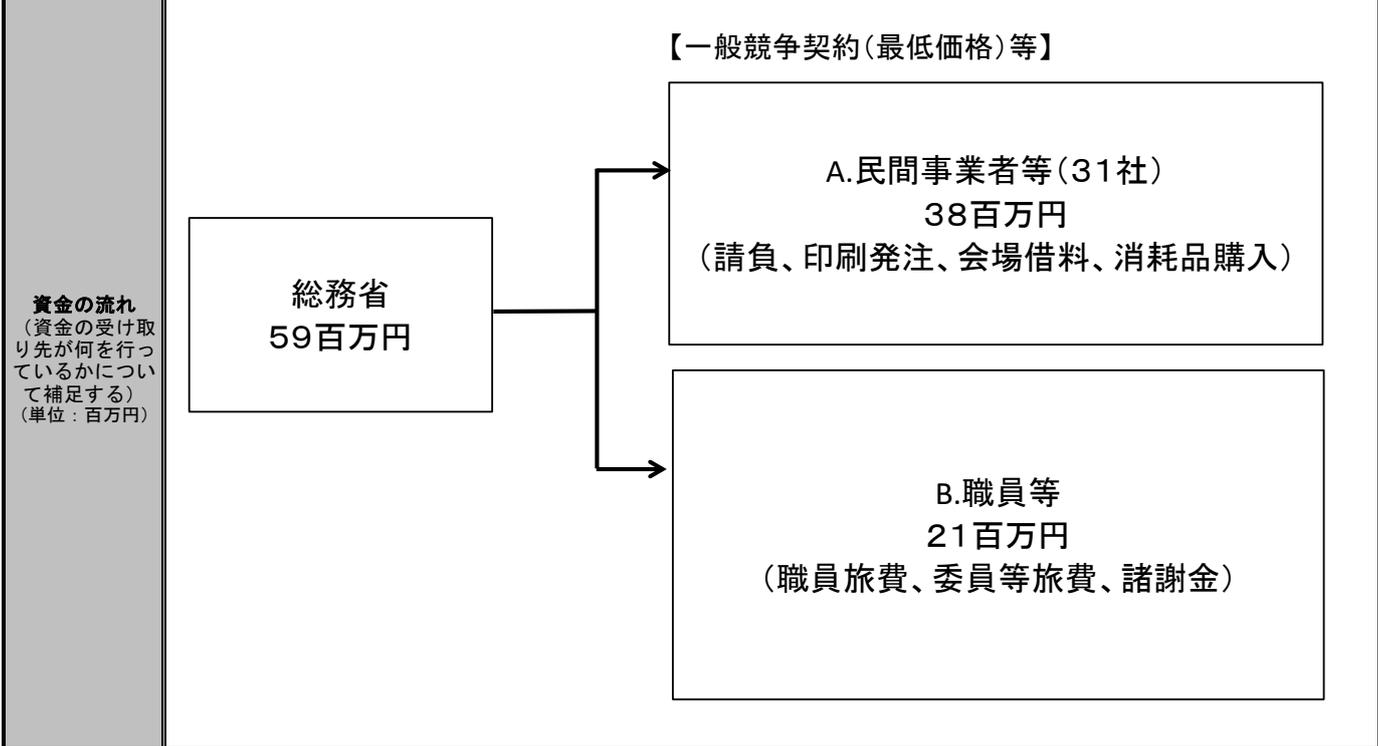
執 行 等 改	引き続き適正な予算執行に努める。
------------------	------------------

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	16	平成23年度	20	平成24年度	21	平成25年度	13
平成26年度	11	平成27年度	10	平成28年度	10	平成29年度	11
平成30年度	14						
平成31年度	総務省 (0014)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.株式会社価値総合研究所			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
地方振興対策調査費	令和元年度人材力活性化に関する調査研究事業の請負	7.1	職員旅費	支出額が100万未満の者である。	-	
			委員等旅費	支出額が100万未満の者である。	-	
			諸謝金	支出額が100万未満の者である。	-	
計		7.1	計		0	

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

